

<若い世代への認知症普及啓発実行委員会 様>

上映日：2018/05/20(日) 場所：臼杵市中央公民館(大分県臼杵市)



ケアニンの上映は若年層への認知症啓発に多大な貢献をする可能性があります

●上映会を開催するに至った経緯を教えてください。

臼杵市医師会では臼杵市、大分大学と共同で「認知症を考える会」を平成22年に設立し、以来市民を対象とした認知症検診や認知症啓発の為に講演会活動を行ってきました。これらの活動の中で見えてきた課題は、「50歳未満の若年者の参加が少ないこと」だったのです。このため若い人たちに認知症の正しい理解を促す目的で、ケアニン上映を中心にしたイベントを企画しました。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

メンバーは商工会議所青年部の有志、一般会社員、事業経営者、公務員、リハビリ・介護・看護の専門職および主婦など多種多様な有志で構成されています。まず臼杵市医師会地域包括支援センターが地元の商工会議所青年部会会長に相談し、多職種の方々にイベント開催の協力を呼び掛けていただき多くの人々が集まりました。

●協力の得られた団体はありましたか？

イベント開催の趣旨を臼杵市、臼杵市医師会・歯科医師会・薬剤師会、認知症疾患医療センター(白川病院)に説明し後援が得られました。さらに製薬メーカー、市内一般企業などからも協賛を得ることが出来ました。

●資金はどのように捻出しましたか？

東保臼杵市医師会会長の指示のもとで医師会の全ての会員および歯科医師会・薬剤師会の大半の会員から協賛金を得られ、これが今回のイベントの資金となりました。

また臼杵市からは広報にかかる経費の一部について援助を受けています。

●どのように告知をしましたか？

医療機関へのチラシやポスターの配布、市報掲載、包括季刊誌の全戸配布、市内小学校5、6年生と中学生全員へのチラシ配布、フェイスブック、ケーブルテレビ、新聞無料掲載、認知症カフェ・講座等での広報を続けました。

●上映会当日の様子や、上映会開催の感想を教えてください。

ケアニン鑑賞者は507名、来場者は推定で900名となりました。映画上映に加えて児童向けに複数のゲームのブースを用意し、飲食店・雑貨ワークショップなどの出店依頼も行い最終的に21店舗に参加していただきました。またステージを設営してバンド演奏や認知症を題材にした寸劇などを上演した結果、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の来場を達成できています。運営ボランティアとして高校生の参加が実現したことも若い世代への認知症啓発に役立つと考えます。映画を鑑賞していた幼児から「おばあちゃんも大変だね」との発言があったと聞いています。ケアニンの内容を十分に理解できているとは考えにくいのですが、小さい頃よりこのような感情を持てることで将来的には認知症に対する意識が芽生えるのではないかと思います。

●地域の方々と繋がったエピソードがあれば教えてください。

ある幼稚園教諭の上映後の感想で、「認知症の方への接し方は園児へのそれと基本的には一緒であり、他の教諭にこの事を伝えた」とのことです。

若い幼稚園教諭達が認知症の方への接し方についてのヒントを得たようです。このような事の積み重ねによって一般市民による認知症の方への適切な関わりが次第に形成されることでしょう。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

今回の上映会実施には包括支援センターを中心として行政、医師会・歯科医師会・一般のボランティアの方々との連携が必要不可欠でした。多くの市民に鑑賞していただくためには企画、広報、実行のチームの役割が重要でしたが、これらのチームが情熱を持って行動していたと感じました。このように上映に関わった全員が同じ目標に向けて、熱い気持ちを共有することが成功の秘訣と考えます。

上映会終了後の感想として「もっと多くの人に観てもらいたい」「最も観てもらいたいのは若者たちだ」などの意見が寄せられています。これからの認知症の啓発は若年層に拡大することが必要であり、この目的のためにケアニン上映は多大な貢献の可能性を示唆していると感じました。上映会開催は大変ですが、得られるものはそれ以上に大きいと思います。もっとも多くの地域で「ケアニン」が広まる事を願っています。

ご担当者：藤澤 沙樹さん
(臼杵市医師会地域包括支援センター
コスモス 認知症地域支援推進員)